令和６年度　大垣市教科研究会

１学年　算数科学習指導案

１　単元名　「たしざん」

２　本単元について

本単元の主なねらいは、以下のとおりである。（学習指導要領より）

A（２）加法、減法

（２）加法及び減法にかかわる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　次のような知識及び技能を身に付けること。

（ア）加法及び減法の意味について理解し、それらが用いられる場合について知ること。

（イ） 加法及び減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。

（ウ）１位数と１位数との加法及びその逆の減法の計算が確実にできること。

（エ）簡単な場合について、２位数などについても加法及び減法ができることを知ること。

イ　次のような思考力、判断力、表現力などを身に付けること。

（ア）数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、日常生活に生かしたりすること。

本単元に関わる既習内容として、６月の「あわせていくつ」の学習で、１位数と１位数の加法の計算の仕方や、加法が用いられる場面を式に表すことを学んでいる。その際自分の考えをブロックや図、式に表す活動を行ってきた。また、本時までに１０のまとまりを作って計算をすること、加数分解をして被加数を１０にして計算することを行っている。本時では、和が１０よりも大きくなる数の計算の仕方について取り上げる。加数を分解して１０を作るだけでなく、被加数を分解して１０を作ってもよいことに気付かせ、計算の仕方の幅を広げられるようにしたい。

３　大垣市小算研テーマに関わって

見方・考え方を働かせ、数学的に考える児童を育てる指導の在り方

【重点１】数学的な見方・考え方を働かせ、数学的に考える児童を育てる数学的活動の明確化

小学校学習指導要領には、数学的活動については以下のように記述されている。

（１） 内容の「A 数と計算」、「B 図形」、「C 測定」、「D データの活用」に示す学習については、次のような数学的活動に取り組むものとする。

ア　身の回りの事象を観察したり、具体物を操作したりして、数量や形を見出す活動

イ　日常生活の問題を具体物などを用いて解決したり結果を確かめたりする活動

ウ　算数の問題を具体物などを用いて解決したり結果を確かめたりする活動

エ　問題解決の過程や結果を、具体物や図などを用いて表現する活動

〔用語・記号〕

一の位　十の位　＋　－　＝

このことを踏まえ、本単元では以下のことについて実践した。

単元を見通した数学的活動の位置付け

本単元を行うにあたり、単位時間内における数学的活動を以下に位置づけた。

第１時：ブロックや図を用いて、10 のまとまりを作って計算する方法を考える活動。

第２時：ブロックや図を用いて、加数分解で計算する方法を考える活動。

第３時：ブロックや図を用いて、被加数分解でも計算することができることを理解する活動。

第４時：図を用いて、和が 11 以上になる加法の計算の理解を深める活動。

第５・６時：たしざんカードを用いて計算の練習をし、計算に習熟する活動。

第７時：基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する活動。

【重点２】主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

目的と方途の明確化

将来，目の前の問題を周りの人の力を借りてでも何とか自分たちの力で解決しようとする子，また，自分と違う見方や考え方を受け入れ，さらによりよい考えを追及してくことができる子を目指す。

〇グループ交流の目的

義務教育スタートの１年生が、自分が分かる・学級全員が分かるために動き出せるようにしていきい。そのために本時は，方法別のグループ交流を行うことで，互いの考え方の違いにきづかせ，10 のまとまりをつくるよさや効率的な 10 のまとまりのつくり方について考えさせたい。また，自分の考えをもつことができなかった児童は，仲間の意見を聞き，考えをもつことができるようにしたい。

上記の目的を明確にし、交流をすることで課題解決のための自分の行動を決めさせ、主体的に学習に取り組む姿勢を育む。また、課題解決の手掛かりにしたり、考えを深めたりすることができる活動とする。

４　単元の目標

１位数と１位数をたして、和が１１以上になる加法について、１０のまとまりに着目して計算の仕方を考え、計算することができる。

知　１位数と１位数をたして、和が 11 以上になる加法の計算ができ、それを用いて問題を解決することができる。

考　10 のまとまりに着目し、繰り上がりのある加法の計算の仕方を考え、説明することができる。

主　ブロックや図を使った考えや、被加数を 10 にする考えなどのそれぞれのよさを認めたり、関連付けたりしながら、話し合うことができる。

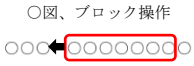
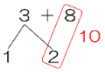
５　単元指導計画

時	小単元	活動内容	評価基準
1	１たし算（教科書 p.66～74）	１位数と１位数をたして、和が 11 以上になる加法の計算の仕方（加数分解）を理解する。	知　１位数と１位数をたして、和が 11 以上になる加法の計算の理解している。 考　10 のまとまりに着目し、繰り上がりのある加法の計算の仕方を考え、説明している。 主　ブロックや図を使った考えや、被加数を 10 にする考えなどのそれぞれのよさを認めたり、関連付けたりしながら、話し合っている。
2		１位数と１位数をたして、和が 11 以上になる加法の計算の理解を深める。	知　１位数と１位数をたして、和が 11 以上になる加法の計算ができる。 考　被加数が８の場合も、前時の被加数が９の場合と同じように考えれば計算できると考えている。
3（本時）		１位数と１位数をたして、和が 11 以上になる加法の計算の仕方（被加数分解）を理解する。	知　１位数と１位数をたして、和が 11 以上になる加法の計算の仕方を理解している。
4		１位数と１位数をたして、和が 11 以上になる加法の計算の理解を深める。	知　１位数と１位数をたして、和が 11 以上になる加法の計算を加数分解や被加数分解でできる。
5 6	２たし算カード（教科書 p.75）	たしざんカードを用いて計算の練習をし、計算に習熟する。また、計算カードを使ったいろいろな活動をし、答えが同じになるカードを見つけることができる。	知　１位数と１位数をたして、和が 11 以上になる加法の計算が確実にできる。 主　答えが同じになる計算カードの並びから規則性をいろいろと見つけようとしている。
7	たしかめ問題（教科書 p.76）	基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	知　１位数と１位数をたして、和が 11 以上になる加法の計算ができ、それを用いて問題を解決することができる。

6　本時の目標（３／７）

・1 位数と 1 位数をたして、和が 11 以上になる加法の計算の仕方（被加数分解）を理解する。

7　本時の展開

	学習活動	指導・援助
導入	１．本時の課題をつかむ ○どのように計算をするとよいか見通しをもつ。 ・ぜんぶでがあるからだからたしざんだ。 ・８＋３の時は３を１と２に分けて１０を作った。 ・式は３＋８だ。 ・１０をつくればできそうだ。 あ　あとのかずがおおきいけいさんのしかたをかんがえよう。	・問題提示の前に、既習事項の確認をする。 ・デジタル教科書の問題を提示する。 ・前時との違いを確認する。たしざんことば・ひきざんことばの掲示物を確認し、立式させる。
展開	２．課題を追究する。 個人追究 ブロック操作，図，言葉で計算の仕方を考える。 ①　８を７と１に分けて１０を作って計算する。 ３＋８＝$\overset{10}{\boxed{3+7}}$＋１ ＝１１ ○図、ブロック操作  さくらんぼ図 言葉 ８を７と１にわけて、７を３にたすと１０になります。のこりの、１と１０をあわせて１１になります。だから、こたえは１１です。 ②３を１と２に分けて１０を作って計算する。 ３＋８＝１＋$\overset{10}{\boxed{2+8}}$ ＝１１ ○図、ブロック操作 さくらんぼ図  言葉 ３を１と２にわけて、２を８にたすと１０になります。のこりの、１と１０をあわせて１１になります。だから、こたえは１１です。 ３．方法別のグループで交流をする。 ・自分の考えがよく伝わるように横並びで意見交流をする。 ・考えはそれぞれ異なるため、お互いの意見の似ているところを探す。 →１０のまとまりを作って計算している。 後ろの数で１０のまとまりをつくってもよい。 ４．全体交流をする。（各グループ 2 つずつ出す。） 求め方を確認する。 被加数分解の考えでも加数分解と同じ和になり、正しいことを確認する。 ５．本時のまとめをする。 まとめ　どちらかのかずをわけて 10 のまとまりをつくればよい。	個人追究のために１０の作り方などの、ヒントを教室に掲示する。 考えが書けなかったり、ヒントを探せなかったりする児童を見届け、支援する。 **主体的・対話的な学び** 仲間の発表から解決の手掛かりを探したり、仲間に問題の解き方を説明したりさせる。 仲間に考えを伝えようと取り組む。 グループ内で違う考えの仲間を見つけ、似ている所を探せるよう声掛けをする。 ノートに書いてある児童の考えをタブレット端末で写真に撮り、テレビに映す。 評価規準【知識】 1 位数と 1 位数をたして、和が 11 以上になる加法の計算の仕方を理解している。（ノート・発言）
終末	６．補充問題を解く。（個人） ○P74 練習 4 を解く。	・補充問題の正否を点検する。 ・できた児童は GIFU Web ラーニングに取り組む。